

平成30年度 津山市立河辺小学校

学校評価書(別紙)

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)			分析・改善方策	学校関係者評価
			状況	評価	達成状況	評価	総合評価		
【学校教育目標】 落ち着いた学校(学級)づくりを目指し、生徒指導の充実を図る。 自ら学び生き生きと表現する心豊かな子どもを育てる。	全職員で共通した学習規律の徹底を図り、落ち着いた学習環境をつくる。 ・正しい姿勢で学習する。 ・話を最後まで静かに聞く。 など	・今年度末までに、すべての学級で、「学校生活のきまり」が守られるように指導する。 ・特別な支援が必要な児童へは、個別目標を設定し個に応じた指導を行い、少しずつ自己指導力が高まるようにする。	・多くの学級できまりを守って学習ができるようになった。 ・一部の学級では、授業中に離席するなどきまりが守れない状況が見られる。	B	・落ち着いた学校づくりへの取組は少しずつはあるが成果をあげていない。落ち着いた一部の学級では、未だきまりが守れない児童がいる。 ・落ち着いた学級には、支援員を配置し複数で対応した。	B	・学校全体としては、落ち着いた学習環境になりつつあるが、一部学級では依然落ち着いた学級でない。学校全体で更なる統一した取組が必要。 ・学級によっては、児童の発表の音が小さかった。みんなによく聞こえるような声で発表できる学級づくりを目指してみたい。 ・不登校傾向の児童が、不登校に陥らないよう、学校は保護者と共に取組を進めてほしい。	B	・授業の様子を見て回ったが、どの学級も静かに学習できていた。以前と比較すると、少しずつはあるが、学校が落ち着いたきていないのではないかと思う。
	対処的な生徒指導だけでなく、教職員と児童の信頼関係を築き、積極的な生徒指導を展開する。	・授業を中心に、「共感的な人間関係をつくり」、「自己決定の場を与え」、「自己存在感を高める」など、積極的な生徒指導を行うことで、問題行動を予防する取組を行う。	・教師と児童の共感的な人間関係を構築するよう、学校全体で取り組んだ。 ・一部児童が、教師の指導に反発している学級がある。	C	・教職員と児童との信頼関係が構築できた学級では、児童の自己肯定感も高まり、きまり正しい学校生活を送ることができた。	B	・教職員が深い児童理解のもとで指導することが大切である。そのため、職員研修の充実が求められる。 ・不登校傾向の児童が、不登校に陥らないよう、学校は保護者と共に取組を進めてほしい。		
	危機管理意識を高め、事故等の未然防止に努めるとともに、平日頃から「報告」「連絡」「相談」を密にする。	・「報告」「連絡」「相談」を密にし、事故等の未然防止を図るとともに、職員の危機管理意識を高め、安心・安全な環境を作る。	・今年度は、現在のところ救急搬送する事故もなく、大きなけが等も起こっていない。	B	・事故等の件数が、昨年度と比較し減っている。事故等の事後処理も適切にできている。 ・「報連相」が機能している。	A	・「報連相」の徹底を図り、事故の未然防止のため、日頃から生活指導や安全点検の充実を図る。		
	児童理解を深めるため、日常的に情報交換をする。 ・支援の必要な児童には、ケース会議等により組織的に対応する。	・毎日の終礼で児童について情報交換し、全職員で児童を指導していく体制を整えるとともに、児童理解をより一層深めるようにする。 ・支援の必要な児童には、ケース会議を開き対応を検討し実践する。	・終礼や職員会議で情報交換を行い、教職員の児童理解が進んだ。 ・ケース会議を随時実施し、組織としてどう取り組むか検討できた。	B	・ケース会議等で取組を検討し、組織として取り組んでいった結果、少しずつ成果をあげることができた。 ・組織的な取組が十分機能しない場面もあった。	B	・ケース会議を定期的に開催し、組織的に対応しようとしてきた。事例によっては、学校内だけでなく、関係機関を含めた拡大ケース会議を行う必要がある。		
【目指す児童像】 ・思いやりのある子 ・進んで学び合う子 ・思いを伝え合う子	岡山型学習指導のスタンダードを基本に、校内研究の充実を図り、実践的な指導力の向上に努める。 ・学習のめあてを提示し、自ら考え、判断し、表現する学習を展開する。 ・考えを表現し合い、学び合う場を設定する。 ・体験的な学習、作業的な学習を取り入れる。	・教員が1人1回は、研究授業を行い、授業者及び参観者のお互いの授業力の向上を図る。 ・初任者指導教員と連携し、教員全体の授業力向上を図る。 ・岡山型学習指導のスタンダードに基づいた問題解決的な授業ができるようにする。	・校内研究のテーマにしたがって、授業研究が充実できた。特に、ノートルダム清心女子大学 赤木准教授を講師に迎え、国語科の指導研究を深めることができた。	B	・1人1回の研究授業が、学級や学校の事情で実施できなかった。 ・授業改革推進員の情報提供が効果的で、教職員の指導力向上につながった。 ・児童の学力が少しずつはあるが向上してきた。	B	・岡山型学習指導のスタンダードを基本に、児童主体の学習のため、授業改善に努める。 ・積極的に外部講師を招聘し、校内研修の充実を図る。	B	・道徳が教科化された。道徳の教科書の内容は素晴らしい。是非、学校は、子どもたちもしっかりと道徳的心情を育ててほしい。 ・先生活の指導力向上が、子どもたちの学力向上につながる。 ・きょうだい学年の取組で、下級生を思いやる心を育てることは、とても良いと思う。これからは、田植えなど、きょうだい学年で行う取組を続けてほしい。
	学級活動を充実し、児童が学年に応じた自治的な力が付くよう指導する。	・きょうだい学年での活動を通して、より良い学校作り、集団作りへの意識を高めるとともに、下級生を思いやる心育てる。 ・ねらいを明確にして児童活動を行うことで、より良い学校(学級)づくりをしようとする態度を育てる。	・きょうだい学年での活動が効果をあげ、上学年が下学年を思いやる姿が見られた。特に、2年生と5年生が行う、田植え・稲刈りでは、5年生が2年生に優しく指導する場面が多く見られた。	B	・ねらいをもって児童活動を行うことで、児童が主体的に活動しようとする意欲を持つことができた。 ・より良い学校づくりに向け、高学年児童があいさつ運動など、積極的に取り組むことができた。	B	・きょうだい学年の活動がより効果的に展開されるように、実施内容や実施方法を工夫していく。		
	学校支援地域本部事業を実施し、地域人材を活用し、効果的な教育を推進する。	・絵本の読み聞かせや家庭科実習、米作りの体験など、学校支援ボランティアと連携して、きめ細やかな支援を行う。	・本の読み聞かせと家庭科ボランティアは、どちらも計画的に実施することができた。	A	・学校支援ボランティアを活用することで、児童の学習意欲が向上するなど、大きな効果をあげることができた。	A	・次年度も学習支援ボランティアを効果的に活用し、児童の学習意欲が向上するよう努める。		
	保護者とは、学級懇談会、地区別懇談会、個人懇談会などで情報共有し学校教育への理解や協力を得るようにする。また、学校評議員会や民生委員との懇談会で地域との連携を図っていく。	・各種懇談会で学校情報を正確に伝える中で、保護者や地域への協力をお願いし、連携して指導に当たっていくようにする。	・学校評議員会は、今年度は参観日に併せて計画的に実施することができた。評議員から、よりよい学校づくりに向けて様々なご助言をいただき、学校経営に生かしていった。	B	・学級懇談会だけでなく、学級だよりなどで学級の状況を発信した。 ・落ち着いた児童に付いては、保護者への連絡を密にし協力を求めた。	B	・学校に地域安全マップが掲示してあった。この活動は、大切にしてほしい。 ・学校のホームページは、あまり見ていなかった。でも、若い保護者には、パソコンだけでなくスマートフォンで見ることができると、これからは学校情報を積極的に発信していく。		
働き方改革を推進し、働きやすい職場づくりを進める。	働き方改革を進め、教職員の業務の軽減を図り、超過勤務の解消に努める。	・最終退校時刻20時、定時退校日18時が80%以上達成できるようにする。 ・会議等、終了時刻を設定することで、効率的な運営に努める。	・最終体調時刻設定と留守番電話の導入により、超過勤務の軽減に努める意識が高まっている。	B	・年度後半から、職員打合せ(終礼)を週3回に減らし、担任等の業務時間を確保するようにした。その結果、超過勤務の軽減につながっている。	B	・最終退校時刻を午後7時30分に早めるなど、より一層、働き方改革に努める。 ・学校行事を精選する。	A	・最終退行時刻が、午後8時は、遅いと思う。午後7時とか7時半といった、もっと早い時間を設定するのはどうか。 ・留守番電話の導入で、先生活の勤務が少しでも緩和されるのであれば、とてもよいと思う。
	職員同士が気軽に思いを語り合える職場にすることで、勤務に対する悩み等を解消し、意欲をもって働くことができるようにする。	・パワーハラ・セクハラのない職場にする。気になることがあれば遠慮なくコンプライアンス担当等に相談する。 ・教職員同士のあいさつを励行する。	・働きやすい職場づくりに向けて、職員がお互いに声を掛け合うように努めた。 ・管理職が、職員の困りごとを丁寧に聞くように努めた。	A	・職場内で学年団、養護教諭、管理職などが窓口になり、悩み事等を相談しやすい雰囲気をつくった。 ・あいさつを励行し、お互いが話しやすい職場になっている。	A	・働きやすい職場づくりのため、今後も職員同士が話しやすい雰囲気をつくっていく。		